

# 留学生の就職と雇用のミスマッチに関する考察

～中国系留学生を対象とする実態調査を踏まえて～

氏名 楊 曉鑫  
指導教員 王 効平

## 要旨

日本では少子高齢化に伴い、経済規模の縮小が見込まれるなか、日本の企業は海外需要の取り込みの重要性が増やしつつある。このような背景に伴い、グローバル人材の採用・活用が益々重要になってきている。日本経済を支える人材の候補として外国人留学生に注目が集まっているが、実際に日本企業への就職を実現する留学生は決して多くはない。2017年度、日本に就職を希望している留学生は6割強あったのに、実際に当年度で就職実現できた留学生はその半分に過ぎなかった。就職の希望がある留学生と人材の需要がある企業に対して、留学生就職難の理由とは自身の希望と企業の期待が合わず、両方の間でミスマッチがあることが以前から指摘されていた。本研究は外国人留学生の就職と雇用のミスマッチとその原因を解明した上で、改善策を提言することを目的としている。

本研究では先行研究を読み解き、質的調査・量的調査の必要性を認識した上で、中国人留学生を対象としたアンケートとインタビュー調査、地方官庁機関、大学法人、就職支援企業、留学生を積極的に雇用する企業にヒアリング調査を実施した。具体的には、外国人留学生の就職意識と留学生の雇用問題に関する先行研究と公開資料を整理分析し、課題設定を行い、中国人留学生・卒業就職者の就職前後の状況に関するアンケートとインタビュー調査を行った。

本研究の結果として、留学生の就職と雇用のミスマッチをクローズアップさせることができた。(1) ほぼ採用基準として求められる言語能力では外国人留学生が大学で身につけた日本語能力と企業が求める日本語能力にギャップがある。(2) 外国人にとって就職活動に関わる情報不足から起因する企業側が求める人材像とのミスマッチがあった。(3) 更に留学生自身のキャリアパスに対する認識(価値観)と長期雇用、業績評価に関わる日本の企業文化との間にミスマッチがあるといえる。(4) 最後には地方中小企業の人材ニーズが大都市・大企業を目指す留学生たちの姿勢に対するミスマッチがあることも確認した。

筆者自身の就職実体験を踏まえて、在日中国人留学生の就職意欲と就業後の状況について、留学生の生活・就業に深く関わる地方行政機関、大学法人、就職支援企業、採用企業にも実地調査を行い、4つのミスマッチにたいして、留学生の日本就職・定着の支援改善策に関する提言を試みた。本研究成果は今後、企業側の外国人留学生採用・雇用と留学生のキャリアアップにプラスになることを願っている。